

## 「型」競技規程

### ■競技場

第1条 競技場は、平坦な安定した一辺が原則8mの正方形とする。

第2条 審判員・監督・競技者の服装は、次の通りとする。

#### < 審判員 >

- 1、ブレザー（紺又は黒・エンブレム着用）
- 2、半袖のシャツ・・・ 白色
- 3、ズボン・・・・・・・ グレー
- 4、ネクタイ・・・・・・・ 実行委員会指定のネクタイ
- 5、靴・・・・・・・ 白色の体育館専用靴

#### < 監督 >

- 1、上下「白色」の空手着又は、連合会ロゴ入りポロシャツかウィンドブレーカーとする。
- 2、古武道においては、例外として、現在使用しているカラーの空手着を認める。
- 3、女子の場合は、空手着の下から「白」無地のTシャツを着用しても良い。
- 4、実行委員会指定の腕章を着用する。

#### < 競技者 >

- 1、上下「白色」の空手着とする。古武道においては例外として、現在使用しているカラーを認める。
- 2、女子の場合は、空手着の下から「白」無地のTシャツを着用しても良い、男子は禁ずる。
- 3、空手着の袖・裾をまくり上げを禁ずる。
- 4、空手着の袖の長さは手首と肘の間とし、裾の長さは足首と膝の間とする。
- 5、ゼッケンは、空手着の背中に糸で縫い付けるか又は、安全ピンでとめる。
- 6、帯の色は、小学生は白帯、中学生・高校生は茶帯とする。

### ■競技種目

第3条 競技の種別

#### < 空手道型 >

首里手系（小（少）林流系）、剛柔流系、上地流系の三つの系統に分け、以下の部門で行う。

1、小学生個人（男女プール）

◎1年生    ◎2年生    ◎3年生    ◎4年生    ◎5年生    ◎6年生

2、小学生団体（男女プール）    ◎5年生    ◎6年生

3、中学生（学年プール）    ◎男子個人    ◎女子個人

4、高校生（学年プール）    ◎男子個人    ◎女子個人

#### < 古武道型 >

1、小学生個人 棒の部

◎3年生男子    ◎4年生男子    ◎5年生男子    ◎6年生男子

◎3年生女子    ◎4年生女子    ◎5年生女子    ◎6年生女子

2、小学生団体 棒の部（男女プール）    ◎高学年（5・6年生）の部

3、中学生個人（学年プール）

◎棒 男子    ◎棒 女子    ◎サイ 男子    ◎サイ 女子

4、高校生個人（学年プール）

◎棒 男子    ◎棒 女子    ◎サイ 男子    ◎サイ 女子

5、競技は、三種目まで出場できる。

6、監督の人数については、1チーム1名とし、複数のチームの兼任を可能とする。

## ■競技方法

第4条 競技方法は次の通りとする。

- 1、空手道・古武道ともに採点競技とする。
- 2、古武道競技に使用する武具の長さ・重量・形状は次の通りとする。

小学生(棒)

長さ:身長より10cm以上長く直径2cm以上

形状:丸棒 材質:木製

中学生

(棒) 長さ:175cm 重量:800g以上

形状:丸棒 材質:カシ、ビワ、クルミ

(サイ) 長さ:演武者の肘より長いものとする

重量:男子550g・女子500g以上(1本)

形状:沖縄伝統サイの形状

高校生

(棒) 長さ:180cm 重量:男子900g・女子800g以上

形状:丸棒 材質:カシ、ビワ、クルミ

(サイ) 長さ:演武者の肘より長いものとする

重量:男子650g・女子550g以上(1本)

形状:沖縄伝統サイの形状

- 3、サイの競技中、サイを投げたり床に突き刺すなどの行為を禁ずる。

## ■団体の編制

第5条 団体の編制は1チーム3人で構成する。

第6条 団体型の選手補充について

- 1、選手補充のため下位クラスからの繰上げを認める。
- 2、補充は、1チーム2名までとする。
- 3、繰上げは、3年生以上から可能とし、2年生以下からの繰上げは認めない。
- 4、繰下げでの補充は、認めない。

## ■型の選択

第7条 型は、次の通り沖縄県空手道連合会の公認する伝統の型から選択する。

<空手>

- 1、小学生は個人戦、団体戦共に別表Ⅰ表から選択する。
- 2、中学生は別表Ⅱ表から選択する。
- 3、高校生は別表Ⅲ表から選択する。

<古武道>

- 1、小学生は個人戦、団体戦共に別表Ⅳから選択する。
- 2、中学生は別表Ⅴから選択する。
- 3、高校生は別表Ⅵ表から選択する。

別表Ⅰ (小学生)

No.	首里手系(小・少林流)	剛柔流系	上地流系
1	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)
2	ナイファンチ(初段)	ゲキサイ(Ⅰ・Ⅱ)	カンシワ
3	ピンアン初段～五段	サイファー	カンシュウ
4	セイサン	セーエンチン(セイユンチン)	第2セーサン
5	アーナンクー		セーチン
6	ワンスー		

別表Ⅱ (中学生)

No.	首里手系(小・少林流)	剛柔流系	上地流系
1	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)
2	ナイファンチ(初段～参段)	ゲキサイ(Ⅰ・Ⅱ)	カンシワ
3	ピンアン(初段～五段)	サイファー	カンシュウ
4	セイサン	セーエンチン(セイユンチン)	第2セーサン
5	アーナンクー	セーパイ	セーチン
6	ワンスー		セーサン
7	パッサイ(小・大)		
8	クーサンクー(小)		

別表Ⅲ (高校生)

No.	首里手系(小・少林流)	剛柔流系	上地流系
1	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	普及型(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)
2	ナイファンチ(初段～参段)	ゲキサイ(Ⅰ・Ⅱ)	カンシワ
3	ピンアン(初段～五段)	サイファー	カンシュウ
4	セイサン	セーエンチン(セイユンチン)	第2セーサン
5	アーナンクー	セーパイ	セーチン
6	ワンスー	シソーチン	セーサン
7	パッサイ(小・大)	セイサン	セーリウ
8	クーサンクー(小・大)		
9	チントー		
10	ソーチン		
11	ゴジュウシホ		

別表Ⅳ 古武道(小学生)

No.	棒の型
1	周氏の棍
2	周氏の棍(小)
3	朝雲の棍
4	公望の棍
5	徳嶺の棍

別表Ⅴ 古武道(中学生)

No.	棒の型	サイの型
1	周氏の棍	津堅志多伯のサイ
2	周氏の棍(小)	二丁サイ
3	朝雲の棍	サイⅠの型
4	公望の棍	サイⅡの型
5	徳嶺の棍	サイⅢの型
6	佐久川の棍	
7	佐久川の棍(小)	

**別表Ⅵ 古武道(高校生)**

No.	棒の型	サイの型
1	周氏の棍	津堅志多伯のサイ
2	周氏の棍(小)	北谷屋良のサイ
3	周氏の棍(大)	石川小のサイ
4	朝雲の棍	二丁サイ
5	公望の棍	三丁サイ
6	徳嶺の棍	サイⅠの型
7	カーチンの棍	サイⅡの型
8	佐久川の棍	サイⅢの型
9	佐久川の棍(小)	
10	佐久川の棍(大)	

## ■審判団・競技委員の構成

第8条 審判団の構成は、1コートにつき主審1人、副審4人とする

第9条 競技委員の構成は、1コートにつき監査・選手係・コール係・計算係・得点表示係・記録係の各1人を置き計6名とする。各役割は以下の通りとする

- 1、監査は、規程の遵守、採点の正確性などを監査し、コート内の競技運営、全般を管理する。
  - ・計算した得点と順位に間違いがないか確認する。
  - ・各コートの競技終了ごとに、競技の結果を大会本部に報告する。
- 2、選手係は、選手の出欠を確認し、整列させる。演武順にコート内への入退場をサポートする。
- 3、コール係は、次の演武者のゼッケン番号と名前、演武後の得点をコールする。
- 4、計算係は、各審判の出した点数を集計し、選手ごとの得点を計算する。
- 5、得点表示係は、計算係が集計し、計算した得点を会場全体に見えるよう表示する。
- 6、記録係は、各審判の出した点数を記録し、選手ごとの得点を記録し、順位を確認する

## ■演武開始及び終了

第10条 演武の開始について次のとおりとする。

- 1、コール係の呼び出しに従い、コート外の演武待機線まで進む。
- 2、選手は、コート外の演武待機線を踏んで待機する。
- 3、主審のベルの合図に従い入場する。
- 4、個人の場合は、コート中央付近で「礼」、型名を「呼称」し、型演武を開始する。
- 5、団体の場合は、演武開始位置で全員が「礼」をし、代表者又は全員で型名を「呼称」し、代表者の「始め」の号令で、型演武を開始する。

第11条 演武終了の方法について次のとおりとする。

- 1、演武が終了したらコート内で「礼」をする。
- 2、コート外の演武待機線まで移動し、演武待機線を踏んで得点の集計を待つ。
- 3、集計が終わり、得点がコール、表示されたら退場する。

## ■得点

第12条 得点の表示方法と計算方法は次の通りとする。

- 1、審判は採点を表示するとき、主審の合図にて右手で表示板を前方上45度に真直ぐ肘を伸ばして行う。
- 2、得点の計算方法は、最高得点と最低得点を除き、合計する。
- 3、同点が生じた場合には、最低得点を加算し判定する。
- 4、それでも同点の場合は、最高得点を加算し判定する。
- 5、なお同点の場合は、再度演武し、採点、計算して判定する。
- 6、それでも同点の場合は、審判団の協議にて判定する。

## ■表彰

第13条 各種目で、次の通り表彰を行う。

- ・最優秀賞 1名 ・優秀賞 2名 ・優良賞 4名 ・参加賞
- ・表彰式は各コートで行い、賞状とメダルを授与する。ただし、参加賞は賞状のみとする。

## ■判定の基準

第14条 評価は10点満点として減点方式を用いて採点する。型の判定基準は次の通りとする。

- 1、採点は、 8. 00～10. 00 の範囲で行う。
- 2、失格
  - (1) 指定以外の空手衣を着用した時。
  - (2) 型の演武中に停止した時。
  - (3) 連合会公認型を改造した時。
  - (4) 申告した型以外の型を演武した時。
  - (5) 審判員の指示に従わない者。
  - (6) 不正行為のあった時。本大会の全ての資格を失い次回の大会は出場停止とする。
  - (7) 禁止事項(服装・競技)を行った時。
  - (8) 武具を落した時。
- 3、減点(0. 50)の対象になるもの。
  - (1) 演武中コートの外に出た時。
  - (2) 団体型演武の不一致。
  - (3) 足首から足先まで垂直に伸ばした猫足立、突き蹴り動作のとき、踵が床から離れる時。
- 4、その他減点(0. 10～0. 40)の対象になるもの。
  - (1) 突き受けの際、下段、中段、上段の区別がはっきりしない時。
  - (2) 突きの際、肩の流れが認められた時。
  - (3) 蹴りの際、上体の姿勢が崩れている時。
  - (4) 着眼の方向と顔面の方向が不一致である時。
  - (5) 気合いが不適切と認められる時。
  - (6) 気迫の欠如が認められる時。
  - (7) 拳の握り方が不適切である時。
  - (8) オーバーアクションをしたとき。
  - (9) 演武中に武具が床にふれた時。
  - (10) 武具が手をはなれた時。
  - (11) 手刀受けで腕が伸びた時